

**鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第1回会議
会議録**

1 日 時 平成29年7月28日(金) 午前10時00分から11時45分まで

2 場 所 市役所本庁舎7階会議室

3 出席者

(1) 委員

No.	氏 名	備 考
1	鎌田 薫	安房農業協同組合 常務理事
2	田原 智之	鴨川市漁業協同組合 参事
3	島田 誠一	鴨川市商工会 副会長
4	鈴木 健史	一般社団法人鴨川市観光協会 会長
5	金井 重人	公益社団法人安房医師会 (東条メンタルホスピタル)
6	内山 達也	学校法人城西大学城西国際大学 観光学部 副学部長
7	恵美須 文枝	学校法人鉄蕉館亀田医療大学 副学長
8	鈴木 親彦	鴨川市金融団 幹事 (館山信用金庫鴨川支店長)
9	高野 孟	株式会社インサイダー 代表取締役

(順不同、敬称略)

※欠席

No.	氏 名	備 考
1	角田 憲一	ヤスダファインテ労働組合 執行委員長

(順不同、敬称略)

(2) 市

No.	所属・職氏名	備 考
1	市 長 亀田 郁夫	
2	参 事 岩田 知也	

3	総務課 課長 松本 憲好	
4	財政課 課長 増田 勝己	
5	子ども支援課 課長 羽田 幸弘	
6	農水商工課 課長 石井 利彦	
7	観光課 課長 山口 昌宏	
8	企画政策課 課長 平川 潔	
9	企画政策課 主幹 大久保 孝雄	事務局
10	企画政策課 課長補佐 石井 宏子	〃
11	企画政策課 地域戦略係 係長 滝口 俊孝	〃
12	企画政策課 地域戦略係 副主査 浦邊 彰紀	〃
13	企画政策課 地域戦略係 主事 小粒 将一	〃

(3) 傍聴者

1名

4 資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料1 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の運営方法について
- ・資料2 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況について
- ・資料3 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
- ・資料4 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るアクションプラン及び平成27・28年度実績・平成29年度計画
- ・資料5 地方創生関連交付金事業の実施結果及び重要業績評価指標（KPI）の達成状況

5 会議内容

(1) 開会（午前10時00分）

(2) 委嘱状交付

市長から出席委員へ委嘱状を交付した。

(3) 市長あいさつ

(要旨)

近年は、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を高めるため、地方創生に関する取組が全国的に進められている。

本市においても、人口減少の克服や仕事づくりなどを目的として、人口ビジョン及び総合戦略を平成27年度に策定している。人口ビジョンでは、約25年後の2040年を目指し、このまま推移すると26,600人余りとなることが推計される人口を、出生率の上昇と移住・定住による流入人口を増加させることをもって、約32,000人を維持する目標を掲げている。

自身、県議会議員を10年間務め、「鴨川は遅れている」と感じ、市長選への出馬を決意した。鴨川には、農業・漁業・観光・商業・医療・福祉・教育、そしてスポーツと素晴らしいものが沢山あり、その一つ一つを強くし、まとまったときに、このまちは強くなると思っている。

総合戦略の推進には、着実に事業の実施を図る一方で、戦略全般に渡る検証、調整を行い、より効果の高いものへと改善するための一連のプロセスとして、いわゆるPDCAサイクルを実践することも必要である。

本年度は総合戦略の3年目、中間年度に当たることから、その効果検証を行い、必要に応じて見直すこととしており、この会議は、その検討を行っていただくために設置したものである。

総合戦略の推進、そして力強い鴨川市の実現には、官民の協働が必要不可欠であるので、地方創生の推進の一端を担う立場から、主体性のある、建設的な意見をいただくよう、お願いする。

(4) 委員長、副委員長の選出

市長の進行により、委員長に 島田 誠一 委員を、副委員長に 内山 達也 委員を選出した。

(5) 議 題

鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第5条第2項の規定に基づき会議が成立したことについて事務局から報告した後、同条第1項の規定に基づき、島田委員長が議長となって議事を進行した。

議題1 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の運営方法について

資料1により、事務局から説明し、資料のとおり承認した。

この資料に基づき、議長から、名簿順に 鎌田 薫 委員及び 田原 智之 委員を会議録署名委員として指名した。

質疑等は次のとおり。

《金井委員》

開催日の通知は原則2週間前となっているが、1か月前に連絡をいただくことは難しい

のか。

《平川課長》

極力早い段階で連絡をしようと考えているが、調整に時間を要するので、その点は、ご考慮いただきたい。

《鈴木(健)委員》

今回の会議で次回の日程を決めることはできないのか。

《平川課長》

今年度は4回会議を予定しているが、議会などと重なることが想定されるため、あらかじめ日程をお示しできない事情がある。今回は改めてということで、調整をお願いしたい。

議題2 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況について

資料2により、事務局から説明した。

質疑等は、なし。

議題3 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

○平成27・28年度事業実績及び平成29年度事業計画について

資料3及び4により、事務局から説明し、資料のとおり承認した。

質疑等は次のとおり。

・みんなみの里について

《金井委員》

資料4の2頁、平成29年度の計画について、みんなみの里の年間入込客数が20%減となっているのは何故か。

平成28年度においても改修工事を行っているが、今年度は、一時閉鎖を伴う大規模な改修を実施するという理解でよいか。

《石井課長》

道路整備が遅れていることと、近隣に類似の施設が存在していること、また、平成29年度の10月から大規模な改修工事を予定していることから、このように設定した。

《市長》

来年4月から無印良品ブランドで有名な(株)良品計画が入る予定であり、自然減に対処していく観点からも、30年度には一緒に計画を策定していく予定である。

10月からの工事は、全面的ではないが一部閉鎖を伴う予定である。

《高野委員》

運営主体が良品計画となるのか。

《市長》

情報発信や販売は、良品計画が行う予定である。

《金井委員》

自然減について発言があったが、観光入込客数を増やしていくという理解でよいか。

《市長》

そのとおり。地元と一緒に価値あるものへと高めていくことを目指す。

《高野委員》

良品計画では、3年前から釜沼北の休耕田を借り、そこで収穫した米で亀田酒造と組んで日本酒を造った。評判が良く、すぐに売れてしまったことから、今回の話が持ち上がった経緯がある。

無印良品は全世界へ展開しているが、それは一過性で終ると考えているようで、次は日本人の暮らしの原点である“里山”に注目している。

・公共交通について

《惠美須委員》

鴨川を活性化するには、高齢者や子どもが来やすくすることが重要だと感じる。そこで、交通アクセスの整備について、活動指標の回数が具体的に何を示すのか教えていただきたい。また、特急の本数が減ってきているが、そのようなことに対して、具体的に成果が上がる方法はないのか、併せて伺う。

《平川課長》

活動指標については、実際に要望活動を行った数を示している。現状、特急電車の減便と同時に、勝浦止まりや上総一ノ宮止まりの便が増え、鴨川に来るには不便な状況となっているが、利用者の少ない地域に関しては減らさざるを得ないとのことである。市としては、引き続き要望活動を続けていくことと併せて、利用者を増やすための方策を考えていく。

《惠美須委員》

交通網の整備も大事だが、それと同時に、来ていただいた方が移動しやすいシステムづくりが必要と感じる。東京ではコミュニティバスが運行されている地域があり、車のないお年寄りにとっても移動しやすいシステムとなっている。それを整備し、PRすることを検討してみてはどうか。

《平川課長》

現時点で具体的な解決策は見つかっていないが、コミュニティバス路線の全般的な見直しと、新しい手段の検討を今年度進めていく予定である。

《高野委員》

大山地区の住民が東京に出る場合、大半は富楽里から高速バスに乗車しており、アクシ一号を利用する者はいない。その実態について、どうお考えか。

《平川課長》

そのような状況は把握している。長狭地区を通過して東京方面へ運行するバスについても今後検討していきたい。

《金井委員》

鴨川～東京間の高速バスはあるが、鴨川～横浜間の高速バスの運行は検討していないのか。

《平川課長》

現状では金田バスターミナルでの乗り換えとなる。直通ではない分、利用者にとって不

便な状況となっている。

・情報発信について

《鈴木(健)委員》

いいモノを作っても市場に出なければ伝わらず、効果が出ない。いい商品を作り、いいホームページを作っても、それを多くの顧客に見ていただけないと商品が売れない。訴求方法について、各々のアクションプランで個別に検討することとしているのか、詳細をお聞きしたい。

《平川課長》

総合戦略では、シティプロモーションについて特に記載はしていないが、市全体で戦略的にプロモーションを行っていくことについて市長から指示を受けており、組織の改編も含め、今後検討していく予定である。

《市長》

個別のアクションプランがあるが、出来る限り一つにまとめ、市として発信したいと考えている。観光プラットフォームに関しても、商工会、観光協会、市を一つにまとめていきたい。

○地方創生関連交付金事業の効果検証について

資料5により、事務局から説明し、資料のとおり承認した。

質疑等は次のとおり。

・鴨川版CCRC推進事業について

《鈴木(健)委員》

ふるさと回帰支援センターについて、情報が上手く発信されていないように感じるが、市として具体的な対策は行っているのか。

《石井課長》

ホームページについては、見やすいものに改修した。移住相談窓口を農水商工課内に設置しているが、移住相談に関する情報を積極的に発信できるよう検討していく。

《鈴木(健)委員》

ホームページを作っても閲覧数は増えない。ホームページを作るのは当たり前のことであって、リンクを貼るなどして発信していく姿勢が必要なのではないか。

《高野委員》

有楽町のふるさと回帰支援センターを訪れる人は多い。積極的な市町村は相談員やブースを出している。ホームページは受け身なものであるので、前に出て行く姿勢が必要なのではないか。

大山地区では外国人の移住者が増えている。情報発信の対象を広げていくことも検討してはどうか。

《恵美須委員》

東京に住んでいる高齢者は鴨川のことを知らない。鴨川の良さは実際に来てみないとわ

からない。その点をアピールし、定住を促進してはどうか。

《平川課長》

情報発信をしている側と受け取る側の認識の違い、実際に訴求しているのかという点に関しては、今後も更なる検証が必要だと考えている。

《市長》

ふるさと回帰支援センターについては、行政として出来ることには限界があるため、官民が一体となって進めていきたい。

・ **さまざまな交通手段の連携による県内観光地へのアクセス・観光プロモーション強化事業及び海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業について**

《鈴木(健)委員》

成田空港の活用について、成田に来られる方は世界から来られる方であって、何の計画もなしに訪れることは、まずあり得ない。高速バスの実証運行においては、こういった路線があるということを世界に知らしめる必要もあったのではないかな。

成田空港からいきなり千葉に引っ張るのではなく、東京を経由すればその間のインフラは整っているので、その点をPRすべきではないかな。

《市長》

海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくりについて、本来は天津小湊から江見まで全てを含めた海辺をどうするかを考えねばならない。

議題4 その他

事務局から、次回会議の日程については、調整の上で改めて連絡することを説明した。

(6) 閉会 (午前11時45分)

(以上)

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議第1回会議における会議録の内容について確認します。

平成29年8月21日

鎌田 薫

田原 智之